

障害者職業能力開発校における 職業訓練上の支援・配慮事項に 関する調査結果について(概要)

障害者職業能力開発校における職業訓練上の支援・配慮事項に関する調査結果について（概要）

1 調査実施の内容

○ 調査目的

特別支援障害者の範囲、職業訓練上の特別な支援の内容、及び特別支援障害者の受入れに伴う課題と対応方針を検討するため、障害者職業能力開発校における職業訓練上の支援・配慮事項を把握する。

○ 調査対象 障害者職業能力開発校 19校

○ 各種調査内容

- (1) 障害者職業能力開発校における入校選考状況調査（平成23年度）
- (2) 障害者職業能力開発校における障害別の入校・修了・就職状況調査（平成23年度）
- (3) 訓練生に対する支援・配慮事項調査
- (4) 特別支援障害者の要件に該当する障害種別・程度別に関するアンケート調査

○ 調査期間 平成24年12月11日から平成25年1月15日まで

2 調査結果の概要

□ 障害者職業能力開発校における入校選考状況調査（平成23年度）

◆ 調査票1-1

- ・ 全体で、応募者数は2,628人、入校者数は1,515人となっている。
- ・ 応募者数について、障害種別別に多い順に主なものをみると、

① 重複障害	618人 (23.5%)
② 知的障害	602人 (22.9%)
③ 精神障害	371人 (14.1%)
④ 下肢障害	304人 (11.6%)
⑤ 聴覚・平衡障害	210人 (8.0%)

となっている。

- ・ 入校者数について、障害種別別に多い順に主なものをみると、

① 知的障害	327人 (21.6%)
② 重複障害	326人 (21.5%)
③ 下肢障害	200人 (13.2%)
④ 精神障害	194人 (12.8%)
⑤ 聴覚・平衡障害	120人 (7.9%)

 となっている。

- ・ 入校選考の不合格者数は、全体で1,113人、入校しなかった者の割合は42.4%となっている。

- ・ 入校選考不合格理由についてみると、入校選考不合格理由として回答のあったものは、全体で661件あり、そのうち応募者理由によるものが522件 (79.0%)、訓練校理由によるものが139件 (21.0%) となっている。
 - 入校選考不合格理由の内訳の主なものをみると、
 - 応募者理由によるものでは、

① 「基礎学力不足」	137件 (20.7%)
② 「入校辞退」	131件 (19.8%)
③ 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」	101件 (15.3%)
 - 訓練校理由によるものでは、
 - 「定員以上の応募者があり選抜」 98件 (14.8%)
 となっている。

- ・ 入校しなかった者の割合について、障害種別別に高い順にみると、

① 精神障害	47.7%
② 重複障害	47.2%
③ 知的障害	45.7%
④ 聴覚・平行障害	42.9%
⑤ 体幹機能障害	41.4%

 となっている。(応募者数20人以上)
 - 他方、低い順にみると
 - | | |
|--------|-------|
| ① 上肢障害 | 22.1% |
| ② 視覚障害 | 33.8% |
| ③ 発達障害 | 33.9% |
 となっている。(応募者数20人以上)

- 入校選考不合格理由を障害種別別にみると、以下のとおりとなっている。

視覚障害

【合格しなかった者の割合】 33.8% (不合格者数 22人)
一部の級(3級、6級)で高くなっているものの、視覚障害全体では(33.8%)比較的 low、特別支援障害者の1級、2級も26.7%、31.3%と低くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」
- ② 「訓練意欲・就業意欲の欠如」
- ③ 「基礎学力不足」
- ④ 「障害での症状が固定・安定していない」

聴覚・平衡障害

【合格しなかった者の割合】 42.9% (不合格者数 90人)
1級が60.0%と特に高くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「入校辞退」
- ② 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」
- ③ 「基礎学力不足」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

上肢障害

【合格しなかった者の割合】 22.1% (不合格者数 23人)
上肢障害全体では(22.1%)低く、特別支援障害者の1級も28.6%と低くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「基礎学力不足」
- ② 「入校辞退」

下肢障害

【合格しなかった者の割合】 34.2% (不合格者数 104人)

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「入校辞退」
- ① 「基礎学力不足」
- ③ 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

体幹機能障害

【合格しなかった者の割合】 41.4% (不合格者数 29人)

特別支援障害者の1級が53.8%と高くなっているが、特別支援障害者の2級は21.4%と低くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「基礎学力不足」
- ② 「訓練意欲・就業意欲の欠如」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

内部機能障害

【合格しなかった者の割合】 38.3% (不合格者数 51人)

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「入校辞退」
- ② 「基礎学力不足」
- ③ 「訓練意欲・就業意欲の欠如」
- ④ 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

知的障害

【合格しなかった者の割合】 45.7% (不合格者数275人)

重度が87.5%と特に高くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「入校辞退」
- ② 「基本的な生活習慣」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

精神障害

【合格しなかった者の割合】 47.7% (不合格者数 177人)

1級が72.7%と特に高くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「基礎学力不足」
- ② 「入校辞退」
- ③ 「障害面での症状が固定・安定していない」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

発達障害

【合格しなかった者の割合】 33.9% (不合格者数 37人)

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「基礎学力不足」
- ② 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

高次脳機能障害

【合格しなかった者の割合】 34.6% (不合格者数 9人)

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

◆ 調査票1-2

- ・ 重複障害の応募状況をみると、全体で応募者数は618人、入校者数は326人となっている。
- ・ 応募者について、障害種別別に多い順に主なものをみると、

① 上肢障害+下肢障害	240人
② 知的障害+発達障害	45人
③ 上肢障害+下肢障害+高次脳機能障害	38人

となっている。
- ・ 入校状況について、障害種別別に多い順に主なものをみると、

① 上肢障害+下肢障害	135人
② 知的障害+発達障害	20人
③ 下肢障害+体幹機能障害	19人

となっている。
- ・ 入校選考の不合格者数は、全体で292人、入校しなかった者の割合は47.2%となっている。
- ・ 入校選考不合格理由の主なものは、応募者理由では「基礎学力不足」、「訓練意欲・就業意欲の欠如」、「職業適性と訓練科目のミスマッチ」、「入校辞退」、「定員以上の応募があり選抜」、「訓練に配慮した特別な訓練カリキュラム等の設定が困難」となっている。

- 入校しなかった者の割合を重複障害種別別に高い順にみると、

① 上肢障害+下肢障害+高次脳機能障害	76.3%
② 音声・言語障害+上肢障害+下肢障害	61.5%
③ 精神障害+発達障害	57.1%
④ 体幹障害+内部障害	50.0%

となっている。

他方、視覚障害+上肢障害+下肢障害が16.7%と低くなっている。

- 入校選考の不合格者の状況を重複障害種別別にみると、以下のとおりとなっている。

重複障害（上肢+下肢）

【合格しなかった者の割合】 43.8% （不合格者数105人）

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「基礎学力不足」
- ② 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

重複障害（知的+発達）

【合格しなかった者の割合】 55.6% （不合格者数 25人）

55.6%と高くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- 「入校辞退」

訓練校理由によるもの

- 「定員以上の応募者があり選抜」

重複障害（上肢+下肢+高次脳機能）

【合格しなかった者の割合】 76.3% （不合格者数 29人）

76.3%と高くなっている。

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」
- ② 「基礎学力不足」

訓練校理由によるもの

- 「訓練カリキュラムの設定が困難」

重複障害（下肢+体幹）

【合格しなかった者の割合】 34.5% （不合格者数 10人）

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

- ① 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

② 「訓練意欲・就業意欲の欠如」

重複障害（上肢+下肢+体幹）

【合格しなかった者の割合】 42.3% （不合格者数 11人）

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

① 「基礎学力不足」

② 「職業適性と訓練科目のミスマッチ」

重複障害（知的+精神）

【合格しなかった者の割合】 47.6% （不合格者数 10人）

【主な不合格理由】

応募者理由によるもの

① 「入校辞退」

② 「基礎学力不足」

訓練校理由によるもの

○ 「定員以上の応募者があり選抜」

□ 障害者職業能力開発校における障害別の入校・修了・就職状況調査（平成23年度）

◆ 調査票2-1

- ・ 障害者職業能力開発校の修了・就職状況をみると、全体で就職率は63.8%となっている。また、修了者は854人となっており、そのうちの就職者が522人となっている。中退者のうち就職者は275人となっている。
- ・ 就職率について、障害種別別に高い順に主なものをみると、

① 知的障害	80.1%
② 内部機能障害	71.7%
③ 下肢障害	64.9%
④ 聴覚・平衡障害	62.2%
⑤ 上肢障害	60.6%

となっている。
他方、高次脳機能障害が33.3%、音声・言語障害が33.3%、精神障害が47.3%と低くなっている。
- ・ 訓練の中退者の状況をみると、全体で中退率は31.7%となっている。就職者を除いた中退率は、全体で9.7%となっている。

- 就職者を除いた中退率を障害種別別に高い順にみると、

① 精神障害	17.8%
② 高次脳機能障害	16.7%
③ 内臓機能障害	11.7%
④ 聴覚・平衡障害	11.2%

 他方、視覚障害が0%、音声・言語障害が0%と低くなっている。

- 就職率及び就職者を除いた中退率を障害種別別及び障害程度別に主なものをみると、以下のとおりとなっている。

視覚障害

就職率は、全体で53.3%となっている。特別支援障害者の1級、2級が、50.0%、66.7%と高くなっている。4級が16.7%と特に低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で0%と低くなっている。

聴覚・平衡障害

就職率は、全体で62.2%となっている。1級が0.0%と特に低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で11.2%となっている。1級が33.3%、2級が13.2%と特に高くなっている。

音声・言語障害

就職率は、全体で33.3%と低くなっている。2級、4級が、0%、33.3%と低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で0%と低くなっている。

上肢障害

就職率は、全体で60.6%となっている。特別支援障害者の1級が、75.0%となっている。5級が28.6%と特に低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で9.1%となっている。5級、6級が、14.3%、25.0%と高くなっている。

下肢障害

就職率は、全体で64.9%となっている。

就職者を除いた中退率は、全体で8.3%となっている。2級、4級が、11.1%、11.1%とやや高くなっている。

体幹機能障害

就職率は、全体56.1%となっている。1級、2級が、44.4%、44.4%と低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で7.3%となっている。特別支援障害者の1級、2級が、11.1%、11.1%とやや高くなっている。

内部機能障害

就職率は、全体71.7%と高くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で11.7%となっている。4級が、20.0%と高くなっている。

知的障害

就職率は、全体80.1%と高くなっている。重度が0%と特に低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で7.3%となっている。重度が、100%と特に高くなっている。

精神障害

就職率は、全体47.3%と低くなっている。1級、2級が、33.3%、43.3%と低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で17.8%と高くなっている。1級が66.7%と特に高くなっているが、2級、3級も、17.8%、13.3%と高くなっている。

発達障害

就職率は、全体62.2%となっている。

就職者を除いた中退率は、全体で10.8%とやや高くなっている。

高次脳機能障害

就職率は、全体33.3%と低くなっている。

就職者を除いた中退率は、全体で16.7%と高くなっている。

◆ 調査票 2 - 2

- 重複障害の訓練実施状況を見ると、全体で就職率は55.9%となっている。また、修了者は188人となっており、そのうちの就職者が98人となっている。中退者のうち就職者は48人となっている。
- 就職率について、障害種別別に高い順に主なものをみると、

① 体幹障害 + 内部障害	100%
② 精神障害 + 発達障害	100%
③ 知的障害 + 精神障害	72.7%

となっている。
- 訓練の中退者の状況を見ると、全体で中退率は28.0%となっている。就職者を除いた中退率は、全体で9.6%となっている。

- ・ 就職者を除いた中退率を障害種別別に高い順にみると、

① 視覚障害+上肢障害+下肢障害	40.0%
② 下肢障害+精神障害	25.0%
③ 下肢障害+内部障害	25.0%
④ 下肢障害+体幹障害	23.1%
⑤ 知的障害+精神障害	18.2%

 となっている。

□ 訓練生に対する支援・配慮事項調査

◆ 調査票3

- ・ 訓練生に対する支援・配慮事項の主な内容については、別添資料のとおりとなっている。

□ 特別支援障害者の要件に該当する障害種別・程度別に関するアンケート調査

◆ 調査票4

- ・ 特別支援障害者の3要件と具体的な特別支援の内容については、別添資料のとおりとなっている。
- ・ 特別支援障害者の3要件に該当すると回答のあった障害者数は全体で125人となっており、個別の支援内容は283件となっている。
3要件別に内訳をみると、
 - ① 「一般的な集合訓練の実施に難しい面があり、障害の態様に
 応じた個別的対応を特に要する障害者」 156件
 - ② 「障害の態様に応じた職業訓練に関わる技法・経験がまだ十分に
 蓄積されておらず、新たな技能習得ノウハウの開発・試行等の対
 応を要する障害者」 39件
 - ③ 「特別な支援を要する障害者に対して適切に対応できる精神科
 医など外部の専門家や支援者等（障害者校において一般的に配置
 されていない者）との継続的な連携・協力を要する障害者」 88件
 となっている。

・ 特別支援の内容を前回調査（平成19年）の状況調査区分により分類し、その項目を回答の多い順にみると、

- ① 「体調や服薬などの健康管理について、専門機関や家族と連携している」 55件
- ② 「マンツーマンまたはこれに準じる訓練上の支援を行っている」 38件
- ③ 「通院や適応状況に配慮してカリキュラムを弾力的・個別的に設定、実施している」 35件
- ④ 「障害に応じたテキストや作業指示書を作成し訓練を実施している」 28件
- ⑤ 「通常の指示が理解され難い場合等に、通常より時間をかけて伝達したり、代替手段や補助教材等を活用して理解度を確認している」 25件
- ⑥ 「その他個別の支援事項を行っている」 24件

となっている。

他方、

- 「入校時において、個々の状況に応じた方法を用いて本人の障害状況等を把握し、入校後の訓練カリキュラムの策定等を行っている」
- 「障害に配慮した特別な訓練科あるいは訓練コースを設置している」
- 「障害に応じた支援機器の開発・試行を行っている」
- 「教材の読み上げ、ページめくり、検定試験のマークシート代筆、検定時間延長、コピークリップ押印補助等の作業を補助している」
- 「校内及び校外実習の際の移動補助を行っている」
- 「天候に応じた通勤支援等を実施している」
- 「食事、トイレ、入浴等生活に係る配慮を行っている（訪問介護員等の活用による場合を含む）」

については、ほとんど回答がなくまたは極めて少ない状況となっている。

・ 障害種別別に主なものと、以下のとおりとなっている。

精神障害

特別な支援を実施していると回答のあった者は、26人となっており、障害程度は2級が多くなっている。

前回（平成19年）の状況調査の区分により分類すると、

- 「体調や服薬などの健康管理について、専門機関や家族と連携・調整している」
- 「通院や適応状況に配慮してカリキュラムを弾力的・個

別的に設定、実施している」

- 「マンツーマンやこれに準じる支援を実施している」
- 「対人技能、社会生活技能を重視した職業生活指導を実施している」

の項目が多くなっている。

発達障害

特別な支援を実施していると回答のあった者は、24人となっており、障害程度は2級が多くなっている。

状況調査の区分により分類すると、

- 「通院や適応状況に配慮してカリキュラムを弾力的・個別的に設定、実施している」
- 「体調や服薬などの健康管理について、専門機関や家族と連携・調整している」
- 「対人技能、社会生活技能を重視した職業生活指導を実施している」
- 「障害に応じて、就職活動における基礎知識の付与、職場実習による就業体験機会の提供等、個別の就職支援を行っている」
- 「通常の指示が理解され難い場合等に、通常より時間をかけて伝達したり、代替手段や補助教材等を活用して理解度を確認している」

の項目が多くなっている。

視覚障害

特別な支援を実施していると回答のあった者は、18人となっており、障害程度は1級及び2級の者が多くなっている。

前回（平成19年）の状況調査の区分により、特別な支援内容を分類すると、

- 「障害に応じたテキストや作業指示書を作成し訓練を実施している」
- 「専用機器・ソフトの活用方法と業務への応用の教示をおこなっている」
- 「体調や服薬などの健康管理について、専門機関や家族と連携・調整している」
- 「マンツーマンやこれに準じる支援を実施している」

の項目が多くなっている。

高次脳機能障害

特別な支援を実施していると回答のあった者は、10人となっている。

状況調査の区分により分類すると、

- 「マンツーマンやこれに準じる支援を実施している」

- 「通院や適応状況に配慮してカリキュラムを弾力的・個別的に設定、実施している」
- 「体調や服薬などの健康管理について、専門機関や家族と連携・調整している」

の項目が多くなっている。

聴覚障害

特別な支援を実施していると回答のあった者は、9人となっており、障害程度は1級及び2級の者が多くなっている。

状況調査の区分により分類すると、

- 「通常の指示が理解され難い場合等に、通常より時間をかけて伝達したり、代替手段や補助教材等を活用して理解度を確認している」
- 「障害に配慮した特別なカリキュラムを設定している」
- 「障害に応じたテキストや作業指示書を作成し訓練を実施している」
- 「日常生活の不安、悩み事等について個別ガイダンスを実施し、健康・生活面の把握を行っている」

の項目が多くなっている。

知的障害

特別な支援を実施していると回答のあった者は、8人となっており、障害程度は中・軽度となっている。

状況調査の区分により分類すると、

- 「通院や適応状況に配慮してカリキュラムを弾力的・個別的に設定、実施している」
- 「障害に応じたテキストや作業指示書を作成し訓練を実施している」
- 「対人技能、社会生活技能を重視した職業生活指導を実施している」
- 「体調や服薬などの健康管理について、専門機関や家族と連携・調整している」

の項目が多くなっている。

()

○